

# 西田哲学館ニュース

第3号 (2006/1/20)



## 詩と朗読のコンサート「魂のおいしいところ」開催

ALS という難病を支援するグループ「ALS と仲間達」と共に、詩の朗読と音楽のコンサートを開催しました。「詩と音楽を通して、生きている不思議・死んでい不思議について考える」難病患者を支えるグループの和によって生まれたこのコンサートは、現代を代表する詩人・谷川俊太郎を中心に7年前から続けられています。  
(平成17年3月21日開催)

### 谷川徹三(谷川俊太郎の父)と西田幾多郎

谷川俊太郎の父・谷川徹三は哲学者で、西田幾多郎の京都大学教授時代の教え子になります。哲学館の前身である西田記念館の落成式では、谷川徹三が「現代とはどういう時代か」という題で記念講演をしています。落成式典には、西田の三女静子さん、同じく弟子の西谷啓治と共に来賓として出席しています。



昭和43年11月16日 西田記念館落成  
左から谷川徹三、西谷啓治、西田静子

谷川徹三は、著書の中で西田幾多郎との思い出について次のように書いています。

...一度先生がうちへ見えた時のことも思い出した。その頃、近くにいた女婿の金子武蔵君の家にいらしたついでだったらしく、突然の先生の訪問にすっかりうばいしていた妻が、差出したお茶を大きな音をたててすすられたのに、やっと気やすさを感じて、落着きを取戻したとあとで話していた。その時私は先生からいただいた書を床の間にかけて見せた。その中の「鳥啼山更幽」は唐詩の句であることを承知していたが、「万屋人間夢、天辺孤月光」というのは見当がつかなかったの、うかがうと、先生は少しはにかんだ微笑を浮かべて「いつかの夜ふっと心に浮かんだのをそのまま書きつけて置いたのだよ」と言われた。  
(『人間であること』より引用)

### コンサート



コンサートは、谷川俊太郎の朗読を中心に、息子でピアニストの谷川賢作、ハーモニカの続木力、ベースの吉野弘、歌にさがゆきと盛りだくさんの内容でした。谷川俊太郎・賢作親子は、哲学者であった父(賢作にとっては祖父)・徹三との思い出にもふれ、ゆかりの場所で公演できることの喜びを話されていました。



詩を朗読する谷川俊太郎

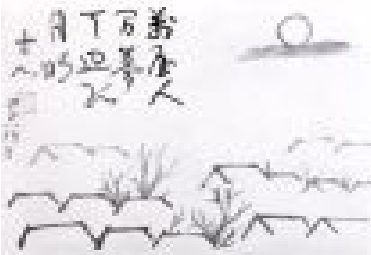
目次			
魂のいちばんおいしいところ	1	野外学習 能登方面	6
第61回寸心忌 記念会	2	コンサート・その他	7
西田哲学会 第3回 年次大会	3	お知らせ	8
第25回夏期哲学講座	4	編集後記 / アクセス	8
各種講座	5		



# 第61回寸心忌 記念講演会

6月7日は西田幾多郎の命日です。例年行われる「寸心忌」は、今年61回目となりました。命日前後には、墓参・頌徳記念碑前での法要、小学生による話し方大会、寸心忌記念講演会が行われました。寸心忌記念講演会は、西ワシントン大学教授の遊佐道子先生にお願いしました。演題は「『万屋人間夢 天辺弧月明』－西田幾多郎先生の弁証法的世界を詩的表現を以って考えてみる－」です。

## 寸心忌記念講演会 講師:遊佐道子氏 (西ワシントン大教授)



遊佐道子先生は、米・カリフォルニア大学で博士号をとり、現在は西ワシントン大学で教授として教鞭をとっている方で、西田幾多郎の伝記の中で最も網羅的で詳細な『伝記』(燈影舎)の著者でもあります。今年は、遊佐先生が、寸心忌を前後して日本に滞在すると聞き、講師をお願いしました。

講演では、まず遊佐先生ご自身の西田哲学との出会い、西洋人にとっての西田哲学の魅力、海外における西田哲学の再評価など、日本ではなかなか知ることができない海外事情も紹介され、日本国内での近年の西田哲学に対する再評価と研究動向も紹介されました。

演題にある「万屋人間夢 天辺弧月明」は、「ばんおくにんげんのゆめ てんぺんこげつのめい」と読みます。遊佐先生の英訳を、講演内容を踏まえてさらに日本語訳すると「一万の屋根の下、人々が夢を見ている;天辺では、孤高の月が明るくかやいている」という意味になるでしょう。西田が書いたこの水墨画と詩を手がかりにして、「弁証法」という難しい言葉で表現される西田哲学のダイナミックな世界が語られました。



ただし講演はいきなり難しい本論ではなく、まずは西田哲学の基礎として、『善の研究』の「純粹経験」や「實在」についても少し説明がありました。また、西田博士が決して理

論に偏重した冷徹な学者ではなく、むしろ「論理は冷静なものと考えられるが、その根底には人間の感情に結びつくものがある」と言っていることや、家庭的に苦勞が多かったことも語られ、そこから出てくる悲哀に満ちた短歌が英訳を付して紹介されました。

本論は、この水墨画が書かれる1年前の昭和7年から話が始まります。その頃、西田は「人格」について考えていました。真の人格とは何なのか。それを西田は、「自己に於て絶対の他を見る」「絶対の他に於て自己を見る」という二つの簡明な言葉で定義しています。この両方向があって本当の人間だというわけですが、これだけでは分かりにくいので、講演では芥川龍之介の『蜘蛛の糸』に登場するカンダタとお釈迦様を例にして説明がありました。

そして、昭和8年正月、まさにこの水墨画が書かれた頃から、西田哲学は新しい段階に入ります。つまり、「人格」についての考えから「弁証法」という考え方へと、思考が展開していったのです。遊佐先生は、この「弁証法」の世界を説明するのに、「一(ONE)・多(MANY)」と「自己(SELF)・世界(WORLD)」という二つの軸を持つ独自のマトリックス(図表)を提示し、講演の最後に水墨画に隠れる「弁証法」が解読されました。



講演内容は『点から線へ』47号に掲載予定ですので、ぜひご一読ください。

## 「わく・ワーク(work)体験」学習

宇ノ気中学校 平成17年5月12日(木)・13日(金)  
河北台中学校 平成17年7月26日(火)～29日(金)



例年哲学館では、かほく市内中学校による「わく・ワーク体験」学習の受け入れをしています。これは中学2年生が地域の職場を訪問し、職場体験を通して交流するものです。今年は12名の生徒達が哲学館を訪れ、清掃業務・図書整理・受付業務などを体験しました。



## 西田哲学会 第3回年次大会 開催

平成17年7月23日(土)、24日(日)

今回で3回目となる西田哲学会・年次大会が、哲学館で開催され、二日間で延べ約230名が訪れました。西田幾多郎の故郷での初めての学会開催となりました。

昨年に引き続き、初日の午前中には、一般会員や初心者向けの「プレカンファレンス」が行われました。プレカンファレンスは、二会場に別れ、各々意見・質問が活発に出され有意義な会となりました。

『善の研究』勉強会  
担当者：北野裕通、水野友晴

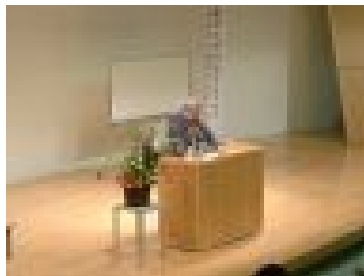


『哲学サロン』  
担当者：米山優、氣多雅子



初日の午後には、以下の二つの講演が行われました。

大橋良介(大阪大学大学院教授)  
「純粹経験としての歴史」  
新田義弘(東洋大学名誉教授)  
「西田哲学と現象学とが出会うところ―超越論的媒体性の論理をめぐって」



新田義弘氏講演風景

講演会の後には、会員同士の懇親会が行われました。



懇親会風景

二日目の24日(日)午前には、以下の三つの研究発表がなされました。

熊谷征一郎(京都大学)  
「西田他者論における転回」  
大西光弘(立命館大学)  
「無の場所と受動的綜合」  
片柳栄一(京都大学)



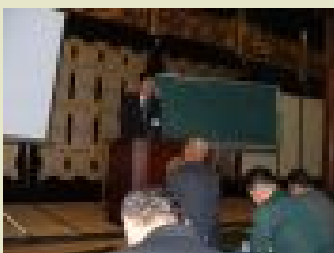
午後には、カーティス・リグスピー氏(ハワイ大学)による海外報告「キルケゴールと西田幾多郎における人間存在の意義の探求」が行われ、最後に、シンポジウム「自覚」が、以下のメンバーで開催されました。

提題：大橋容一郎(上智大学)  
岡田勝明(姫路独協大学)  
コメンテーター：森哲郎(京都産業大)  
司会：板橋勇仁(立正大学)



シンポジウム

### 出前講座(アウトリーチ) 誓海寺(内日角)に出前講話 5/14, 6/11, 7/9



哲学館がある「かほく市内日角」の誓海寺(浄土真宗)・壮誓会に呼ばれて、大熊専門員が「西田幾多郎の生き方」と題して三回の出前講座を行いました。本堂のご本尊の前で、西田幾多郎が記した書や言葉の解説や、ビデオ鑑賞と説明をしながら、その苦渋に満ちた人生を紹介しました。

また、会場では二日にわたって、雑誌『点から線へ』のバックナンバーや西田幾多郎関係近刊図書、現在刊行中の『新版西田幾多郎全集』の販売なども行われました。



## 第25回夏期哲学講座

平成17年8月20日(土)～23日(火)

1981年から続く「夏期哲学講座」。3泊4日の集中講座に、今年も各地から7人の教授陣を講師に迎えて、西田哲学を中心に哲学・宗教・倫理を学びました。北海道から山口まで全国から57名の参加者が集まり、朝から夜まで、哲学に集中する4日間となりました。

今年は初参加者が18名とこれまでにないほど多く、25年続いている伝統に新鮮さが合わさり活気のあるものとなりました。プログラムは例年通り講演会、ゼミ形式の各種研究会、研究発表会などがあり、夜には合宿所で討論会が開かれ、受講生たちの談義は続きました。



今年は博物館実習生による受講者への聞き取りアンケートを行いました。その中から一部を紹介します。

セミナーなどに参加して、大学時代のことを思い出しました。一人で勉強するよりも、みんなで討論したりして刺激を受けることが勉強になるし、励みになります。

(57歳神奈川県男性/初参加)

何がこの講座を活気に溢れさせているのか。25年もこの講座が続いていることがすごい。

(29歳東京都女性/初参加)

交流を深められた。映画や音楽よりも満足感を得られる講座です。

(46歳神奈川県男性/6回目)

考えさせられた。生きることに希望をもった。感謝している。

(81歳愛知県男性/11回目)

論理的なものの考え方ができる。これは仕事にも応用できる。

(69歳兵庫県男性/21回目)



落日拝



墓参



森先生による坐禅会



グループ別研究会

### (第25回 講師)

秋富克哉 (京都工芸繊維大学)  
浅見 洋 (石川県立看護大学)  
大橋良介 (大阪大学大学院)  
岡田勝明 (姫路獨協大学)  
高山 守 (東京大学大学院)  
橋本隼男 (金沢工業大名誉教授)  
森 哲郎 (京都産業大学)

例年、哲学館では夏期哲学講座にあわせて博物館実習生の受け入れをしています。長い歴史のあるこの講座に参加することで、哲学館や西田幾多郎について、より深く知ることができると考えているからです。今年は2名の実習生がスタッフとして加わり、受講生と交流を深めました。講座に参加した実習生の感想です。



池端峻一さん  
都留文科大学4年

西田幾多郎先生のように一人の人物が館の主役の一部である場合は特に、人と人との関係や絆が重要であることを教わりました。今年で25回目となった夏期哲学講座も人と人とのつながりの上に成立したものだと感じ、今回私が参加させていただいたこと、そのつながりの一部になったことがとてもうれしかったです。



杉谷美幸さん  
富山大学4年

合宿をするということで、初めて会う人たちとうまくやっていけるか、哲学についての知識が全くない自分が参加できるような講座なのか、最初は不安でいっぱいでした。しかし今振り返ると、楽しい時間を過ごすことができたように思います。最初は特に興味を持っていなかった哲学の分野に興味を持ち、西田幾多郎をもっと知りたいと思うようになったことが自分にとって良い変化になったと思います。時間があればまた来年も参加して、皆さんにお会いすることができればと思います。



## 各種講座

### 県民大学校「西田幾多郎哲学講座」 終了

西田幾多郎の人物や哲学を中心に、様々な角度から宗教・芸術・倫理などについて学ぶ哲学入門講座です。県内外から講師を招いて、人間とは何か、生きるとは何かを学びます。来年度も5月から開催予定です。

- 5月21日(土) 浅見 洋「西田幾多郎の生涯－四高教授時代 -」
- 6月11日(土) 遊佐道子「『万屋人間夢天辺弧月明』  
- 西田幾多郎先生の弁証法的世界を詩的表現を以って考えてみる -」
- 6月25日(土) 岡崎文明「哲学入門：古代ギリシアの哲学を中心に」
- 7月 2日(土) 岡崎文明「古代ギリシアの哲学と禅の哲学(続)」
- 7月16日(土) 橋本隼男「運命と絶望 - 『オイディプス王』に学ぶ -」
- 9月17日(土) 秋富克哉「ハイデッガーの問い」
- 9月18日(日) 秋富克哉「『われ』と『われわれ』 - 和辻倫理学に学んで -」
- 10月 1日(土) 杉本卓洲「仏教のはじまり - 阿弥陀仏像にちなんで -」
- 10月15日(土) 米山 優「西田幾多郎は個というものをどう考えたか」
- 10月16日(日) 米山 優「日本独自の創作活動 - 連句の話 -」
- 10月22日(土) 鈴木康文「西田幾多郎が学んだ明治の教育制度」
- 11月19日(土) 浅見 洋「西田哲学と環境問題」



米山 優 先生

### 寸心読書会 開催中

1949(昭和24)年から続いている、西田幾多郎に関する本を読む読書会です。昨年、金沢学院大学教授の田邊正彰先生を講師に招いて、丁寧な解説付きで読み進んでいます。現在のテキストは、『西田幾多郎随筆集』(上田閑照編)です。

一般の人を対象に月に一度開催しており、いつからでも参加していただけます。原則的に第2土曜日の午後2時からですが、変更の可能性があるので、参加希望の方は事前にお問い合わせください。



田邊 正彰 先生

### 市民講座「はじめての西田幾多郎」 平成17年5月15日(日)～8月7日(日)全5回 終了



大熊専門員

昨年に引き続き、西田幾多郎入門講座を開催しました。今年も奥野館長と大熊専門員が講師となり、「西田幾多郎ってどんな人？」というみなさんの声にお答えするための、わかりやすい解説となりました。

大熊専門員は、西田幾多郎の代表作『善の研究』をはじめて読むための講座を行いました。『善の研究』ダイジェストを配り、解説と読み進めるためのアドバイスをしました。奥野館長の講座では、西田幾多郎の残した多くの「書」から、西田の人柄やその思いを見ることができました。講座の後には、展示室に入り、直筆の書を見ながらの解説もありました。

様々な角度から西田幾多郎の思想、人となりを分かりやすく学び、親しむことができました。



## 西田幾多郎哲学講座 野外学習 能登方面

平成17年11月12日(土)・13日(日)

今年度の野外学習は、16名の参加者と共に、西田幾多郎ゆかりの地である「高岡・能登」を訪れました。

〔コース概要〕11/12(土)：ミューゼふくおかカメラ館 国泰寺 高岡万葉歴史館 七尾・大乘寺  
国民宿舎「能登うしつ荘」(宿泊)

11/13(日)：西谷記念館・羽根万象美術館 西谷啓治墓参 総持寺祖院(昼食・点心)  
阿岸本誓寺 加賀藩十村役 喜多家

### 西田幾多郎と能登

明治28年、帝国大学選科を修了した西田幾多郎は、郷里に帰り職を探しました。金沢で職は見つからず、かろうじて尋常中学校七尾分校の主任教師という職を得ました。5月には従妹で幼馴染の得田寿美と結婚し、七尾市内の浄土真宗の寺、大乘寺を間借りする生活をはじめます(幾多郎25歳、寿美20歳)。西田は学校の運営に尽力しますが、すぐに火事で校舎がなくなります。結局七尾分校は一年程で閉校となり、西田は、学生の時に中退した四高のドイツ語囑託教師として金沢に戻りました。金沢に戻る1週間ほど前には、七尾で長女・弥生も生まれています。当時の建物は現存しませんが、今の本堂に入れてもらって、新婚時代の西田について話をしました。



七尾・大乘寺

### 国泰寺

西田幾多郎が禅と直接的な関わりを持ち始めたのは、金沢で四高の囑託教師をしていた26歳のときです。当時金沢では、国泰寺の前住職・雪門玄松が卯辰山の麓にある洗心庵で一般人への教化に当たっていました。西田30歳のときには、雪門から居士号「寸心」を与えられました。雪門と西田の交流は、



国泰寺での法話

雪門が還俗した後も続いています。恩師・北条時敬や鈴木大拙も、国泰寺住職であった雪門に参禅していました。

国泰寺は、富山湾に面した丘陵にうっそうとした森林と静寂に包まれています。今回はお忙しいなか管内を案内していただき、住職から法話もしていただきました。

### 西谷記念館・西谷啓治墓参



西谷記念館

西谷記念館には、西田幾多郎の弟子・西谷啓治の著作、天皇御進講書や叙位叙勲などの資料、愛用した遺品、写真、小学生のころの作品等が展示されています。西谷啓治は、明治33年、能登・宇出津で呉服商を営む米次郎の一子として生まれました。一高在学中に西田幾多郎の『思索と体験』を読み、大正十年に京都帝国大学哲学科に

入学します。後に京都大学教授、大谷大学教授、ドイツ・ハンブルグ大学客員教授を務めました。平成2年11月、90歳で逝去し、宇出津の共同墓地内にお墓があります。

### その他 総持寺・喜多家など



総持寺祖院

今回の野外学習は、国泰寺・大乘寺・西谷記念館を中心に、高岡から能登にかけて訪れました。門前の総持寺祖院では、昼食として点心をいただき、20分ほどの法話も聞きました。その他、西田家と同じく加賀藩十村役だった喜多家、哲学館と同じく安藤建築のミューゼ福岡カメラ館も見学しました。



総持寺の点心

来年度の野外学習は、京都方面を予定しています。今回は妙心寺霊雲院、哲学の道を中心とした旅行でした。詳細は未定ですが、訪れたい場所がありましたら哲学館までお気軽にご連絡ください。



## コンサート・その他

### インターナショナル アコースティックギターライブ 平成17年4月22日(土)

世界各地で活躍するギタリスト・中川イサトさんが各国のプレイヤーと行なう日本ツアーが開かれました。哲学館で3度目の開催となるこのコンサートは、アコースティックギターの素朴な音色が哲学ホールによく響くため、評判をよんでいます。

今年は中川イサトさんのほか、岸辺眞明さん、アメリカからはアンディ・マッキーさんが加わり、心あたたまる音色を聴かせてくれました。



### 第3回全国吟詠大会 平成17年10月2日(日)

西田幾多郎の作品を吟ずる第3回全国吟詠大会が行われ、145人の出吟者の皆さんが日頃の練習の成果を披露しました。指定吟題は11題で、その中から一首を自分で選び吟ずることになっています。特別吟詠として、前大会の最優秀者が吟じました。入賞者は以下の通りです。

(最優秀賞)

石川県知事賞 守友文子さん

(優秀賞)

西尾清子さん、坂井他美子さん、上村美德さん、北弘子さん、津田千夏さん、香林美智子さん、高橋登美子さん、表益行さん、山田順子さん、丸山文子さん

(寿賞)

喜多久雄さん、鷲田元弘さん、南勝治さん  
岡島信一さん、田島豊次さん、加藤外次さん



ハイデッガー生家前での奥野館長

### メスキルヒ姉妹都市提携20周年

今年は、旧宇ノ気町から続いているドイツ・メスキルヒ市との姉妹都市交流が20周年となります。平成17年10月2日、メスキルヒ市で記念式典が行われ、西田哲学館の奥野館長も出席しました。

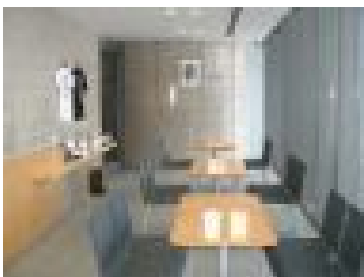
今回はかほく市長をはじめ26名の訪問団がメスキルヒ市を訪れ、互いの交流を深めました。姉妹都市提携のきっかけとなった、哲学者・ハイデッガーの墓参をし、生家やメスキルヒ城の中にあるハイデッガー記念館を訪れました。ハイデッガー記念館には、旧宇ノ気町時代に贈った西田幾多郎の胸像が展示されています。

## お知らせ

### 喫茶「テオリア」 割引ははじめました

喫茶室で友の会会員証を提示すると、100円割引になるサービスをはじめました。この機会にぜひご利用ください。

会員証の提示による割引は、1回の利用につき100円引です。他サービスとの併用はできません。



喫茶・テオリア

喫茶・テオリアは、高台からの景色を眺めながら、静かにゆっくりとお茶を楽しむことができます。無料ゾーンにありますので、展示室に入らず、喫茶だけの利用もできます。お気軽にお越しください。

#### 喫茶 テオリア

営業時間 10:00～18:00

ラストオーダーは17:30

定休日：月曜日

(祝日の場合はその翌日)

### 天空の坐禅会



昨年の坐禅会

金沢・大乘寺の雲水さんが、坐り方からていねいに指導してくれる体験会です。場所は、哲学館5階の見晴らしのよい展望ラウンジ。他では体験できないガラス張りの「坐禅堂」で、こころ静かに坐ってみませんか。

日時：平成18年2月18日(土)

9:00～

講師：東 隆眞(大乘寺住職)

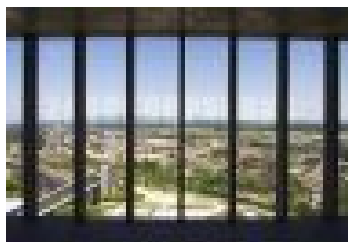
場所：哲学館5階 展望ラウンジ

参加費：無料

定員：35名

申し込みが必要です。

哲学館までお電話ください。



展望ラウンジからの景色

### 日独哲学交流シンポジウム

－「日本におけるドイツ年」企画－

日時：平成18年3月21日(火・祝)

13:00～18:30

場所：哲学ホール

参加費：無料

参加方法・詳細は後日発送のちらしをご覧ください。

プログラム (13:00～15:00)

「ヘーゲル・仏教・西田哲学」

プログラム (15:30～18:30)

「生きる、つくる、考える」

出演

大橋良介(大阪大大学院)

松山壽一(大阪学院大)

寄川条路(愛知大)

安藤忠雄(建築家)

クラウス・フィーヴェーク(イエーナ大)

ヴォルフガング・ヴェルシュ(イエーナ大)

### 『点から線へ』

年間2回発行します

哲学館の講演録『点から線へ』が、年に2回の発行となりました。最新号の第47号は、1月中にお届けする予定です。

#### 編集後記

例年にない大雪にみまわれた北陸の冬となりました。多くの難儀をもたらす雪ですが、夜の哲学の杜は一段と美しいものでした。あたり一面銀世界のなか、思索の道のライトが雪に囲まれてとても穏やかに光ります。外に出たくないような雪の日、あえて哲学の杜の散歩を楽しんでみてはいかがでしょうか。

秋に出す予定だった3号ですが、この時期になってしまいました。次号では来年度の予定も載せていきたいと考えています。

#### 発行:

石川県  
西田幾多郎記念哲学館  
TEL (076)283-6600 FAX (076)283-6320  
〒929-1126 石川県かほく市内日角井1

TEL (076)283-6600 FAX (076)283-6320  
E-mail: nishida-museum@city.kahoku.ishikawa.jp



発行年月日：2006年1月20日